

決算ハイライト

2022年3月期

# 決算ハイライト

2022年3月期

## CONTENTS

---

<b>1. 損益の状況</b>	1
(1) 業績サマリー【単体】	1
(2) コア業務粗利益【単体】	2
(3) 経費【単体】	2
(4) コア業務純益・コア業務純益（除く投資信託解約損益）【単体】	2
(5) 与信費用【単体】	3
(6) 経常利益・当期純利益【単体】	3
(7) 親会社株主に帰属する当期純利益【連結】	3
<b>2. 貸出金・預金等の状況</b>	4
(1) 貸出金残高【単体】	4
(2) 中小企業向け貸出金残高【単体】	4
(3) 個人ローン残高【単体】	4
(4) 預金等残高【単体】	5
(5) 預り資産残高【単体】	5
<b>3. 利鞘【単体】</b>	5
<b>4. 不良債権の状況（金融再生法開示債権額）【単体】</b>	6
<b>5. 自己資本比率【単体・連結】</b>	6
<b>6. 有価証券の評価損益【単体】</b>	6
<b>7. 2023年3月期の業績予想【単体・連結】</b>	7

# 1. 損益の状況

## (1) 業績サマリー【単体】

- ▶ **コア業務純益(除く投資信託解約損益)**は、貸出金利息が1億95百万円減少、投資信託解約損益を除く有価証券利息配当金が3億21百万円減少したものの、役務取引等利益が2億76百万円増加したこと、また、経費が3億63百万円減少したこと等から、**前年対比2億37百万円増加の14億59百万円**となりました。
- ▶ **経常利益**は、投資信託解約損益が20億65百万円減少したものの、国債等債券損益が16億49百万円増加、株式等損益が2億20百万円増加したこと、また、与信費用が85百万円減少したこと等により、**前年対比1億33百万円増加の17億44百万円**となりました。
- ▶ **当期純利益**は、**前年対比1億41百万円増加の12億31百万円**となりました。
- ▶ **期末配当**については、**1株当たり25円**を予定しております。中間配当と合わせますと、年間では1株当たり50円の配当となります。

## ■ 単体業績サマリー

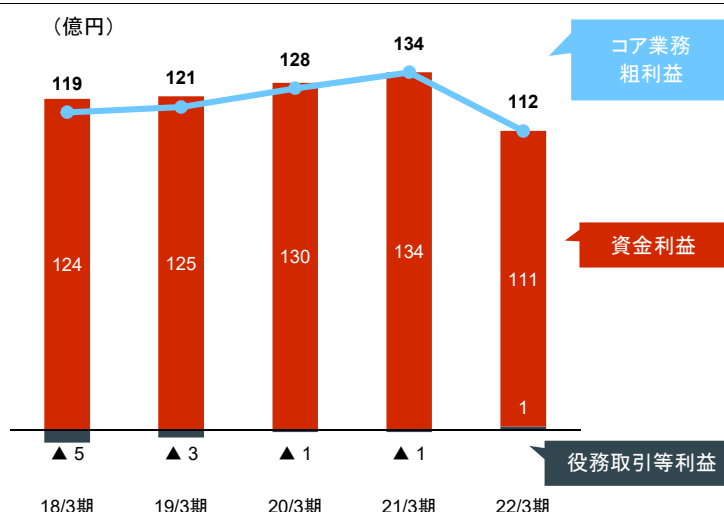
(単位:百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前年対比	業績予想
資金利益	13,460	11,127	▲ 2,333	—
貸出金利息	7,765	7,570	▲ 195	—
有価証券利息配当金	5,908	3,522	▲ 2,386	—
うち 投資信託解約損益	2,222	157	▲ 2,065	—
うち 投資信託解約損益を除く	3,685	3,364	▲ 321	—
役務取引等利益	▲ 116	160	+ 276	—
その他業務利益(除く国債等債券損益)	119	▲ 15	▲ 134	—
コア業務粗利益	13,464	11,272	▲ 2,192	—
△ 経費(除く臨時費用分)	10,018	9,655	▲ 363	—
コア業務純益 *1	3,445	1,617	▲ 1,828	—
コア業務純益(除く投資信託解約損益)	1,222	1,459	+ 237	1,300
国債等債券損益(5勘定戻)	▲ 1,775	▲ 126	+ 1,649	—
株式等損益(3勘定戻)	182	402	+ 220	—
△ 与信費用 *2	471	386	▲ 85	—
その他臨時損益	230	239	+ 9	—
経常利益	1,611	1,744	+ 133	1,450
特別損益	▲ 49	▲ 2	+ 47	—
税引前当期純利益	1,561	1,741	+ 180	—
当期純利益	1,090	1,231	+ 141	1,000

\*1 コア業務純益 = 資金利益 + 役務取引等利益 + その他業務利益 - 国債等債券損益 - 経費

\*2 与信費用 = 不良債権処理額 + 一般貸倒引当金繰入額

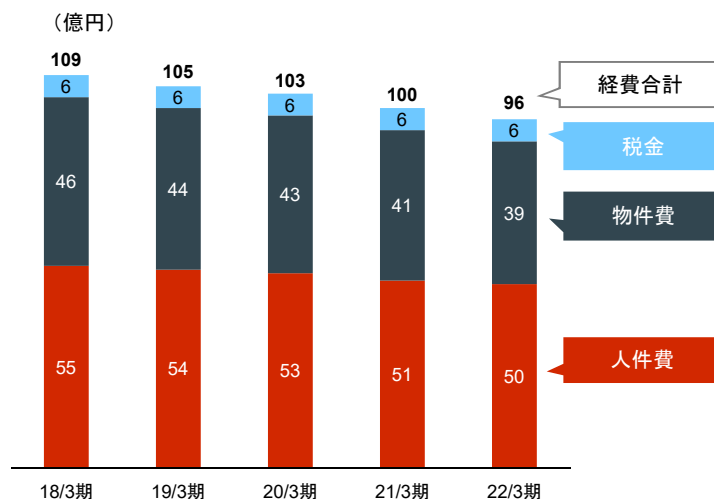
## (2)コア業務粗利益【単体】

- ▶ コア業務粗利益は、前年対比21億92百万円減少の112億72百万円となりました。
- ▶ 資金利益は、貸出金利息および有価証券利息配当金が減少したこと等により、前年対比23億33百万円減少の111億27百万円となりました。
- ▶ 役員取引等利益は、預り資産関連手数料の増加や、法人向け役員手数料の増加等により、前年対比2億76百万円増加の1億60百万円となりました。



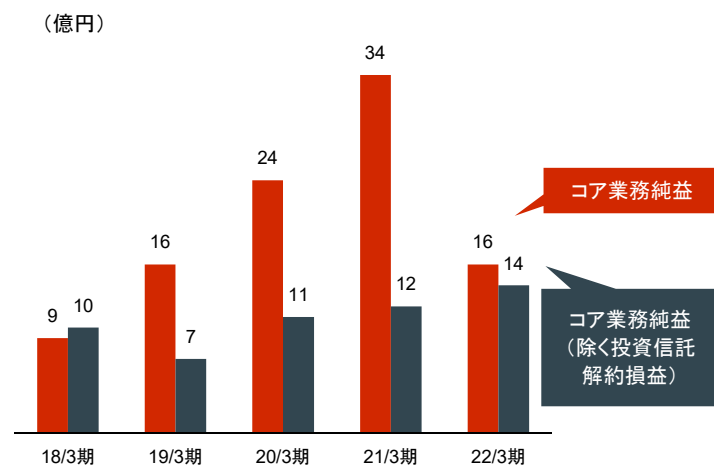
## (3)経費【単体】

- ▶ 経費は、前年対比3億63百万円減少の96億55百万円となりました。
- ▶ 人件費は、前年対比1億16百万円減少の50億65百万円となりました。
- ▶ 物件費は、事務機器やソフトウェアの減価償却費の減少等により、前年対比2億2百万円減少の39億66百万円となりました。



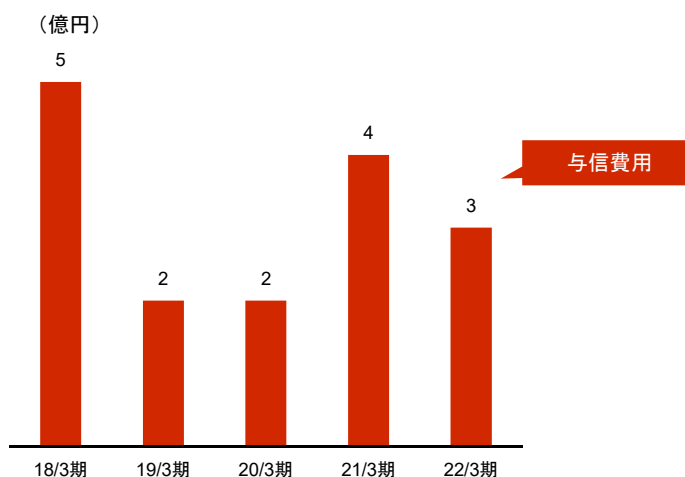
## (4)コア業務純益・コア業務純益(除く投資信託解約損益)【単体】

- ▶ コア業務純益は、前年対比18億28百万円減少の16億17百万円となりました。
- ▶ コア業務純益(除く投資信託解約損益)は、前年対比2億37百万円増加の14億59百万円となりました。



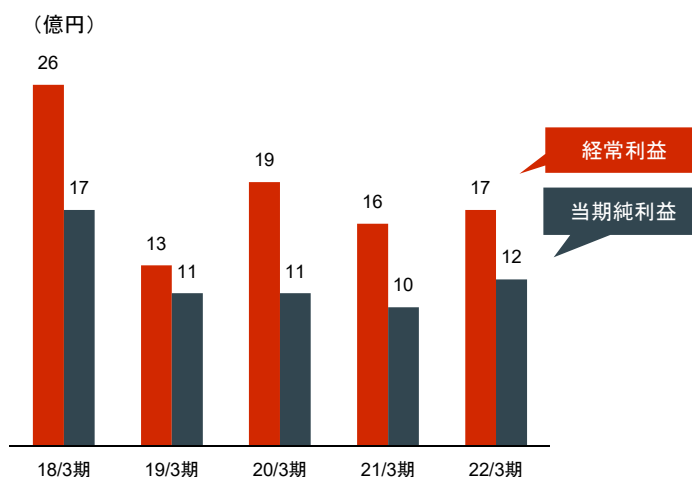
## (5) 与信費用【単体】

- ▶ 与信費用は、新型コロナウイルス感染症の影響による大口先のランクダウンがあったものの、大口先(製造業)の業況回復や事業支援によるランクアップもあり、前年対比85百万円減少の3億86百万円となりました。



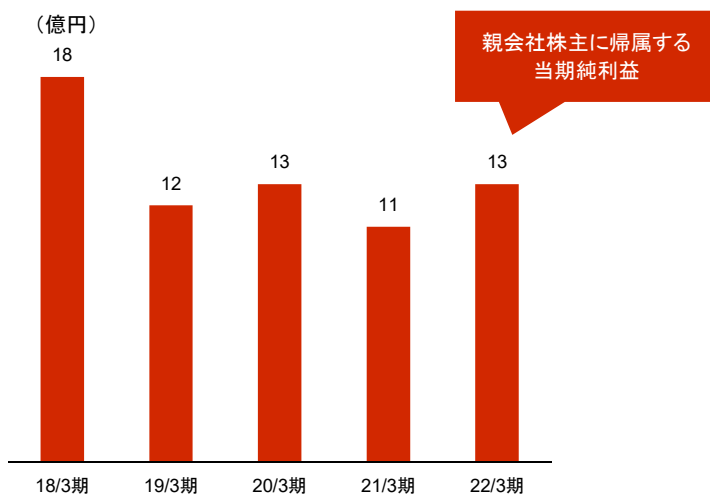
## (6) 経常利益・当期純利益【単体】

- ▶ 経常利益は、前年対比1億33百万円増加の17億44百万円となりました。
- ▶ 当期純利益は、前年対比1億41百万円増加の12億31百万円となりました。



## (7) 親会社株主に帰属する当期純利益【連結】

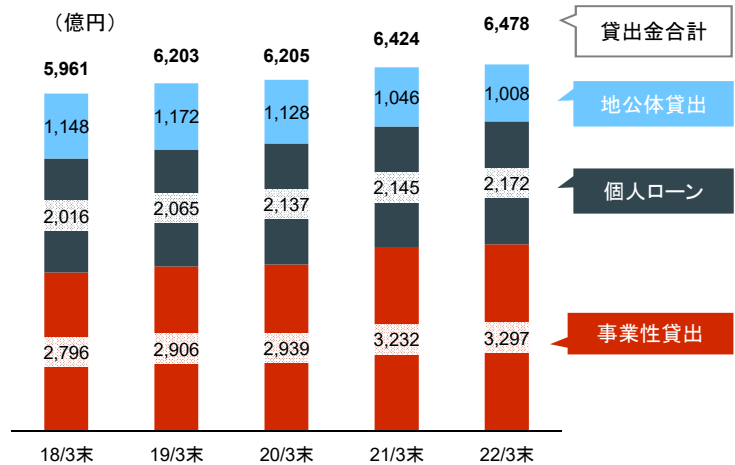
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年対比1億48百万円増加の13億36百万円となりました。
- ▶ 期末配当は、1株当たり25円を予定しております。



## 2. 貸出金・預金等の状況

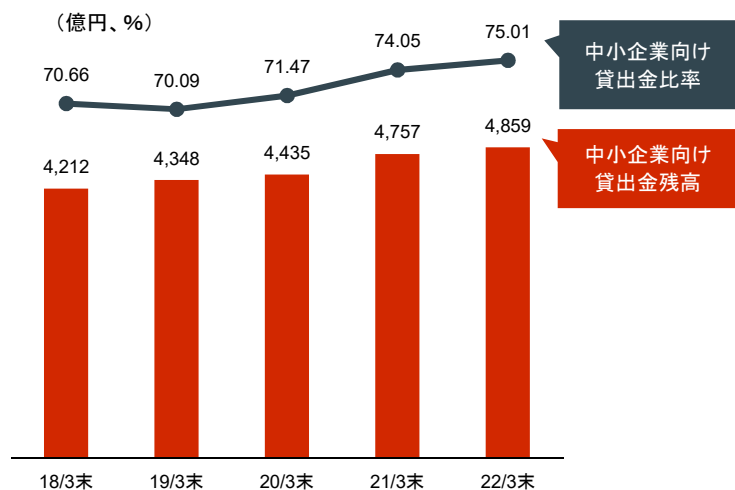
### (1) 貸出金残高【単体】

- ▶ 貸出金残高は、県内事業性貸出および個人ローンが増加した結果、前期末対比54億76百万円増加の6,478億80百万円となりました。
- ▶ 事業性貸出は、前期末対比65億18百万円増加の3,297億42百万円となりました。
- ▶ 個人ローンは、住宅ローンの増加により、前期末対比27億36百万円増加の2,172億48百万円となりました。



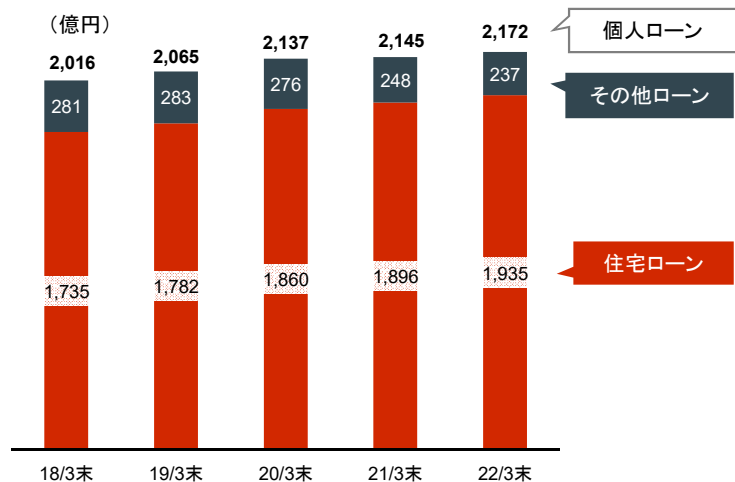
### (2) 中小企業向け貸出金残高【単体】

- ▶ 中小企業向け貸出金残高は、前期末対比102億70百万円増加の4,859億75百万円となりました。
- ▶ 上記の結果、中小企業向け貸出金比率は、前期末対比0.96ポイント上昇の75.01%となりました。



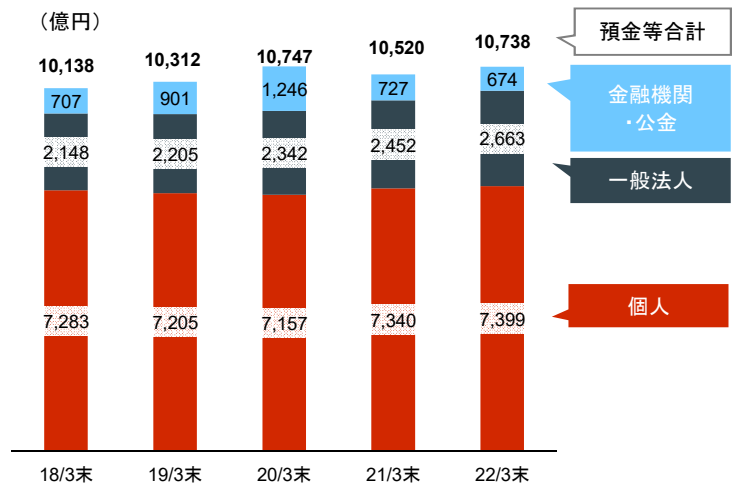
### (3) 個人ローン残高【単体】

- ▶ 個人ローンは、住宅ローンの増加により、前期末対比27億36百万円増加の2,172億48百万円となりました。
- ▶ 住宅ローンは、前期末対比38億28百万円増加の1,935億4百万円となりました。
- ▶ その他ローンは、前期末対比10億91百万円減少の237億44百万円となりました。



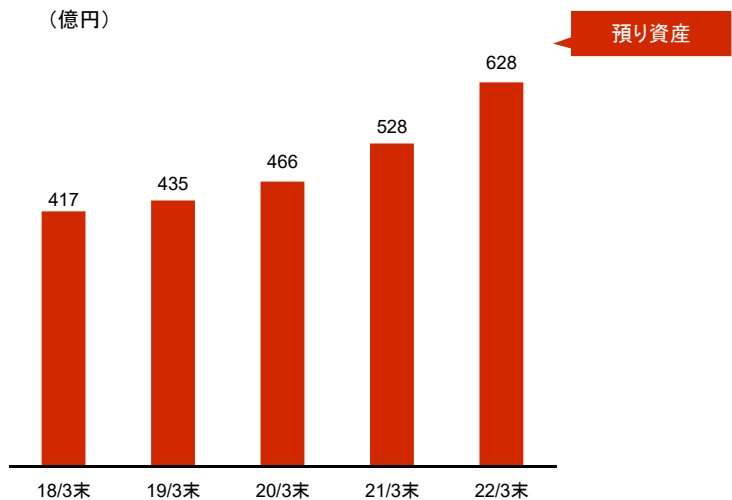
#### (4) 預金等残高【単体】

- ▶ 預金等残高は、前期末対比218億37百万円増加の1兆738億49百万円となりました。
- ▶ 個人預金は、前期末対比59億30百万円増加の7,399億85百万円となりました。
- ▶ 一般法人預金は、前期末対比211億36百万円増加の2,663億87百万円となりました。
- ▶ 金融機関・公金は、金利の高い大口定期預金の取り込みを控えたことから、前期末対比52億28百万円減少の674億77百万円となりました。



#### (5) 預り資産残高\*【単体】

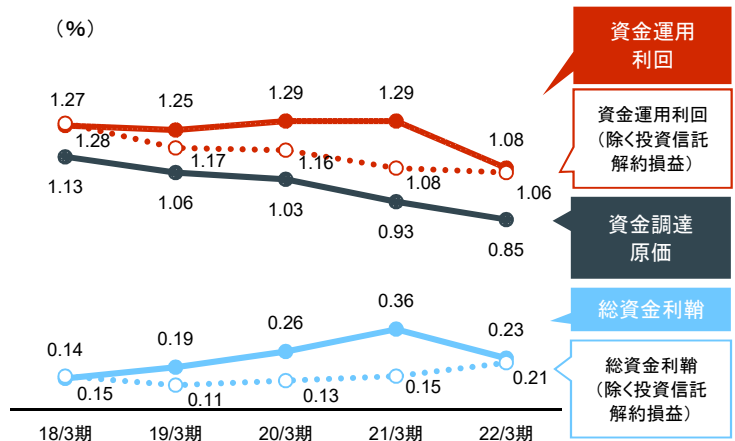
- ▶ 預り資産残高\*は、終身保険の増加および投資信託残高の増加等により、前期末対比100億68百万円増加の628億69百万円となりました。



\* 預り資産残高は、個人年金保険、投資信託、公共債等の合計

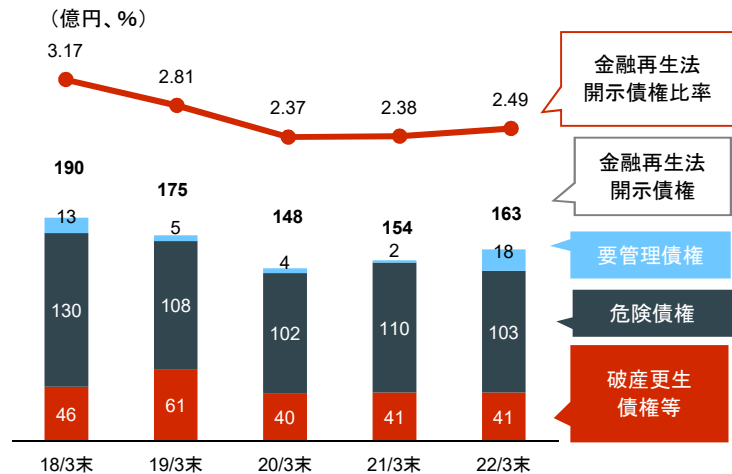
### 3. 利鞘【単体】

- ▶ 資金運用利回りは、貸出金利回および有価証券利回の低下等により、前年対比0.21ポイント低下の1.08%となりました。
- ▶ 資金運用利回(除く投信解約損益)は前年対比0.02ポイント低下の1.06%となりました。
- ▶ 資金調達原価は、経費率の低下等から、前年対比0.08ポイント低下の0.85%となりました。
- ▶ 上記の結果、総資金利鞘は、前年対比0.13ポイント低下の0.23%となりました。
- ▶ 総資金利鞘(除く投信解約損益)は、前年対比0.06ポイント上昇の0.21%となりました。



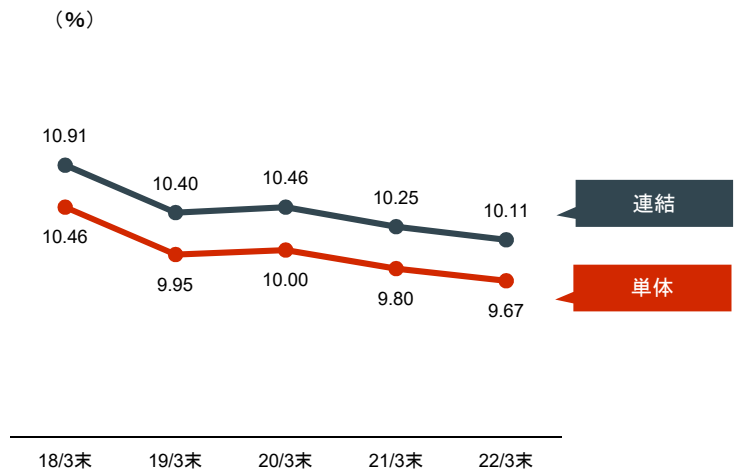
## 4. 不良債権の状況(金融再生法開示債権額)【単体】

- ▶ 金融再生法開示債権額は、前期末対比8億92百万円増加の163億17百万円となりました。
- ▶ 金融再生法開示債権比率は、前期末対比0.11ポイント上昇の2.49%となりました。
- ▶ 金融再生法開示債権の保全率は、前年同期末対比0.91ポイント低下の81.86%となりました。
- ▶ 部分直接償却を実施した場合の金融再生法開示債権額は143億56百万円、金融再生法開示債権比率は2.20%となりました。



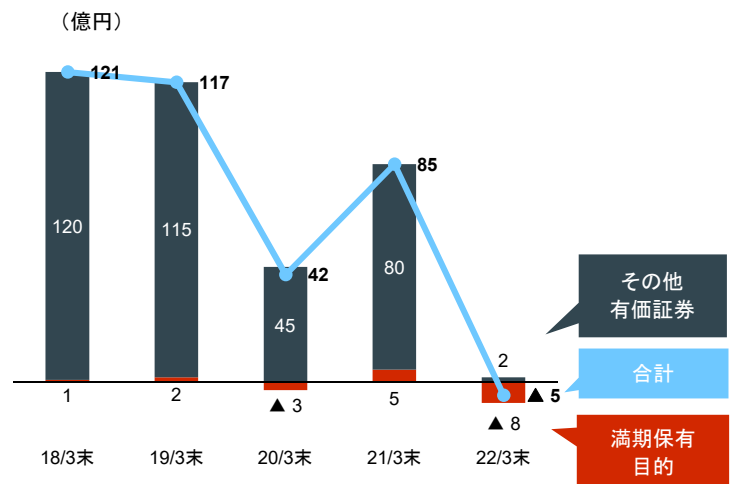
## 5. 自己資本比率【単体・連結】

- ▶ 単体の自己資本比率は、リスク・アセットの増加等により、前期末対比0.13ポイント低下の9.67%となりました。
- ▶ 連結の自己資本比率は、前期末対比0.14ポイント低下の10.11%となりました。



## 6. 有価証券の評価損益【単体】

- ▶ 有価証券の評価損益は、前期末対比91億31百万円減少の5億67百万円の評価損となりました。





## 7. 2023年3月期の業績予想【単体・連結】

- ▶ 単体は、コア業務純益(除く投資信託解約損益)16億50百万円、経常利益14億50百万円、当期純利益10億円を見込んでおります。
- ▶ 連結は、経常利益16億円、親会社株主に帰属する当期純利益11億円を見込んでおります。

### ■ 単体業績予想

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	
	実績	業績予想	前年対比
コア業務純益(除く投資信託解約損益)	1,459	1,650	+ 191
経常利益	1,744	1,450	▲ 294
当期純利益	1,231	1,000	▲ 231

### ■ 連結業績予想

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	
	実績	業績予想	前年対比
経常利益	1,917	1,600	▲ 317
親会社株主に帰属する当期純利益	1,336	1,100	▲ 236